



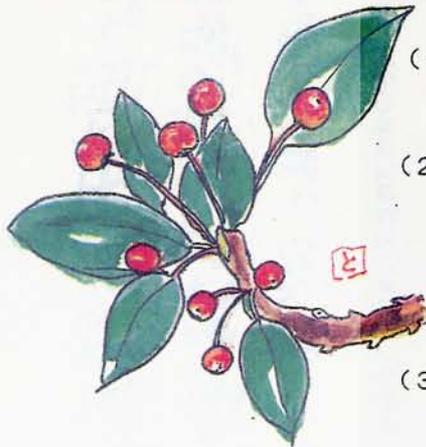
日本共産党北区議会議員  
さがらとしこ  
区政レポート

2012.10.9.No.1090.

ご相談はお気軽に  
TEL FAX とも **3905-0970**

さがらとしこ事務所  
赤羽北3-23-17  
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

日本共産党議員団  
区役所内 3908-7144  
<http://www.kitane.net.ne.jp/~kyoukita/>



今号は、1めと2めんで  
東京北社保病院の特集を  
しています。また定例区議  
会報告の1回ともなっています。

# 北社保病院問題 北区が厚生労働省に回答 10月4日

東京北社会保険病院について

## 1 経過

厚生労働省は、社会保険病院等の譲渡に係る見直しを行い、平成 24 年 8 月 14 日付で文書通知をした。

通知の内容は、R F O が単独で社会保険病院等の運営を委託している者が厚生労働省に対して社会保険病院等を譲渡したい旨の要望があり、地域医療の観点から譲渡対象とすることが適当と認めたときは譲渡する内容である。

上記の通知を受けて、東京北社会保険病院の開設者である公益社団法人地域医療振興協会は、平成 24 年 9 月 1 8 日に厚生労働省に対し、譲渡についての要望書を提出した。

厚生労働省は、北区に対し、譲渡対象とすることに支障がないか、及び譲渡条件に関する意見聴取があった。

## 2 北区から厚生労働省へ要望書提出

北区は厚生労働省に対し、以下の要望を提出した。

地域医療の確保の観点から、下記の点を譲渡条件として、東京北社会保険病院を、現在同病院を運営している公益社団法人地域医療振興協会への譲渡対象とすることについて支障はありません。

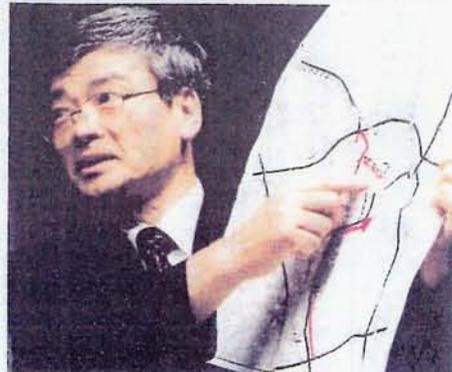
### 【譲渡条件に関する北区の意見】

- (1) 北区の中核的な医療機関として、現状の 25 の診療科目と整備後の 34 3 床（現在は 280 床）を維持し、分娩が可能な病院として、区民の健康と福祉の向上のために寄与すること。
- (2) 具体的には、
  - ・小児科、内科、外科の休日・全夜間診療（二次救急）の実施。
  - ・臨床研修病院、東京都災害拠点病院、東京都周産期連携病院、東京都地域救急センター、東京都感染症診療協力医療機関、東京都脳卒中急性期医療機関の指定等を受け、引き続き、地域医療の中核病院としての機能を維持すること。
- (3) さらに地域の医療ニーズに積極的に応え、地域住民の健康管理・増進を目的とした保健予防活動の実施、二次救急病院としての機能強化、総合的病院機能の充実、北区医師会及び地域の医療機関と十分に連携を図ること。
- (4) 併設する介護老人保健施設を維持すること。
- (5) 上記（1）～（4）の条件を満たした上で、将来に亘り、長期的・安定的に運営すること。
- (6) 区内の小児医療の拠点であることを踏まえ、病児保育の実施に向け検討されたい。



「空気がきれいな桐丘」  
大きな道路はいりません  
住民13人が公述しました。

④ 10月3日の午後 赤羽駅前の赤羽文化センターを会場にして、「桐丘団地4期5期建替」について、環境アセスメント・都民の意見を聴く会（公聴会）がおこなわれました。上の写真は、まちづくり・住民の会々の矢の原千穂さん。  
④ 13名の方が、この地域の豊かな緑を壊さないでほしいと訴えました。



それはじめ  
前都議は、  
団地を貫く南北の  
新しい道路ができると、団地の中に  
通過自動車が増えて危険だと団  
面を示しながら公述  
しました。

④ 区立特養やおき荘側から、旧桐丘北小を望めると、校庭のまわりに、木々がきれいに並んでいます。

- ④ 桐丘郷小学校在旧桐丘北小と統合して、10周年を迎えました。9/29(土)には、10周年記念の金管バンド3回定期演奏会も。
- ④ 赤羽台西小学校は創立50周年。10/27(土)にはお祝いの会。
- ④ 区民まつり、ことも盛大に、桐中生の吹奏楽部がオーケストラが活躍しました。

# 北社保病院の安定した存続は、国立王子の統廃合からの 「区民の悲願」 北区はこの姿勢を堅持し、さらなる働きを。

～ 2012年10月5日 北区議会本会議で 日本共産党 さがらとしこ ～

国立王子病院の統廃合が発表されてから26年、現在の地域医療振興協会による委託運営がはじまって9年が経過しました。

東京北社会保険病院の安定した存続は、前身の国立王子病院の統廃合からの、北区民の悲願」です。

今議会では、厚労省が社会保険病院等の譲渡に係る見直しを行い、8月14日に厚労大臣名の新たな「通知」が出されたこと。これを受け、9月18日、地域医療振興協会が北社保病院の譲渡要望を厚労省に提出したこと。厚労省からは北区に対して、譲渡対象とすることに支障はないか、及び譲渡条件についての意見照会があったこと。9月28日の各会派の幹事長会では、「協会への譲渡対象とすることについては支障はない」こと。病院譲渡にあたって北区としては、北区の中核病院として現状の25診療科目と整備後の343床を維持すること。将来にわたり、長期的安定的に運営することなど6つの条件を付すことを確認し、厚労省に回答することとなりました。

1986年(昭和61年)、国立王子病院の立川病院との統廃合発表から26年。  
1995年(平成7年)、「病院跡にはやっぱり病院を」と運動と世論の高まりの中で、国立王子病院を継承する形で東京北社会保険病院の開設が許可され、地元要望であった介護老人保健施設の併設、地域医療機関との連携、救急医療・災害医療機関との連携、阪神淡路大震災を教訓に、新病院は免震構造をとり入れた病院建設が決定します。当時の国会議員は日本共産党の中島武敏衆議院議員。「病院守る会」と厚生省交渉を重ねました。  
区議の初仕事は、現在の桜並木公園の場所に仮設の工事用ルートを確保することでした。埋蔵文化財の調査を経て、建設工事ははじまったのは1999年(平成11年)。  
2003年(H15年)2月、18診療科目280床の病院と介護老人保健施設が竣工。  
しかし、4月開設を目前に、厚労省(坂口力大臣)は社会保険病院のあり方見直しを理由に突然方針を変更し、「開設中止」を伝えてきました。そのため、北区長は1月20日に「早期開設に関する要望」を、北区議会は1月24日に「早期開設に関する要望書」を提出、さらに3月3日には「早期開設を求める意見書」を全会派一致で政府に提出。町会、自治会そして「後医療の早期実現をめざす会」などから10万筆もの署名が提出され、緊急住民集会も開催されるなど、「国は公約を守って、早期開設を」の世論が一気に盛り上がりました。<左の「さがらレポート」と「後医療の早期実現めざす・守る会ニュース」参照>  
こうして、新しい委託先が決まったのが6月。委託先は現在の地域医療振興協会とされ、病院は翌年の4月に部分開設、6月に全面開設となり、今年で9年目を迎えています。

あらためて、これまでの経過を振り返ってみましたが、「国は約束を守れ」と北区民が総力を結集して、地域医療を守り、機能拡充を求めてきたたかかってきたことは、北区の歴史に誇れるものと考えます。

今後は、RFOから地域医療振興協会に譲渡という新たな展開を迎えますが、「東京北社保病院の安定した存続は、「区民の悲願」であるという北区の姿勢を堅持し、これまで培ってきた区民、北区、区議会、そして北区医師会の一体となった地域医療を守り発展させるための働きがますます重要になっていることを確認し、日本共産党北区議員団も全力を尽くす決意を申し上げて、討論を終わります。

◎ 10月4日、北区は厚労省からの意見照会に対して、回答を送付しました。(表面参照)